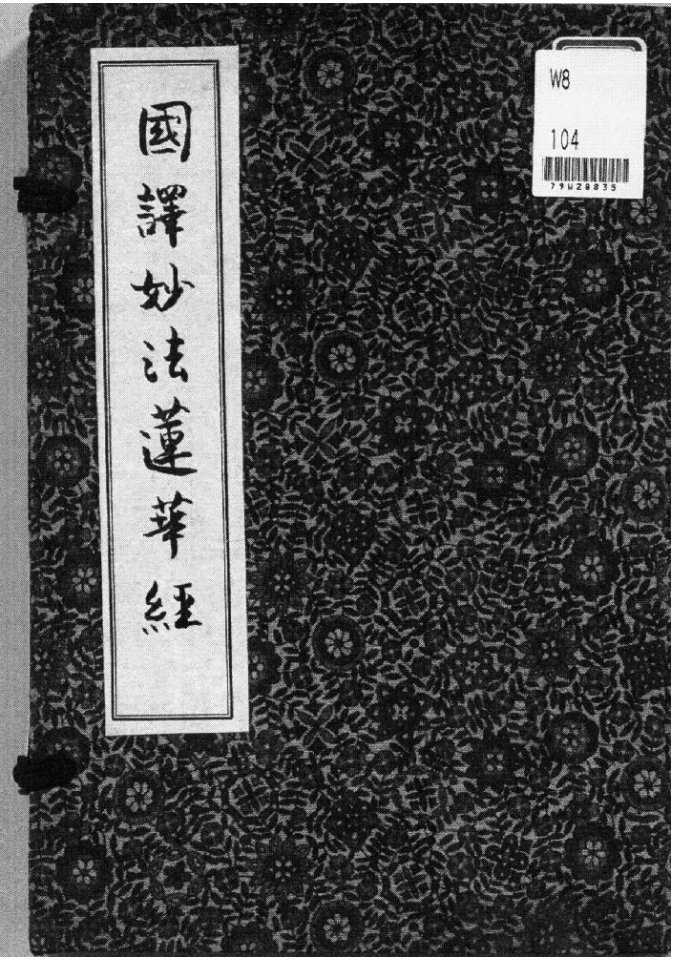
宮澤賢治の研究

阿部敏雄

東芝材遊会　例会　平成30年2月21日



Ⅰ. 研究　資料探索と発表

Ⅱ. 宮沢賢治と法華経

Ⅲ. 宮澤賢治の恋

３月17日　ホームページ掲載に
際して大幅加筆。

Ⅰ．研究　資料探索と発表

今回のシステム(第3世代)は、試論『仏説大東亜戦争』を纏める辺り、またパソコンをW.8.1に変えた辺りから試用を始めたもの。

第1世代　1990年代にリブレットにデータを詰め込み西、仏、伊の古寺を回った。 リブラーコンテストで優秀賞受賞。
発表技術としては　html　のマスター。

前列左から3人目が小生。
リブラーとは、リブレットの熱烈愛好者の意か。

第2世代　2007年からアカデミー賞、世界3大映画祭受賞作品の殆どを
ライブラリー化する為、放映作品、市販DVDのコピーガードの
除去技術をマスターする。

放映作品の場合
1.1.3　放送メデイア　に後述

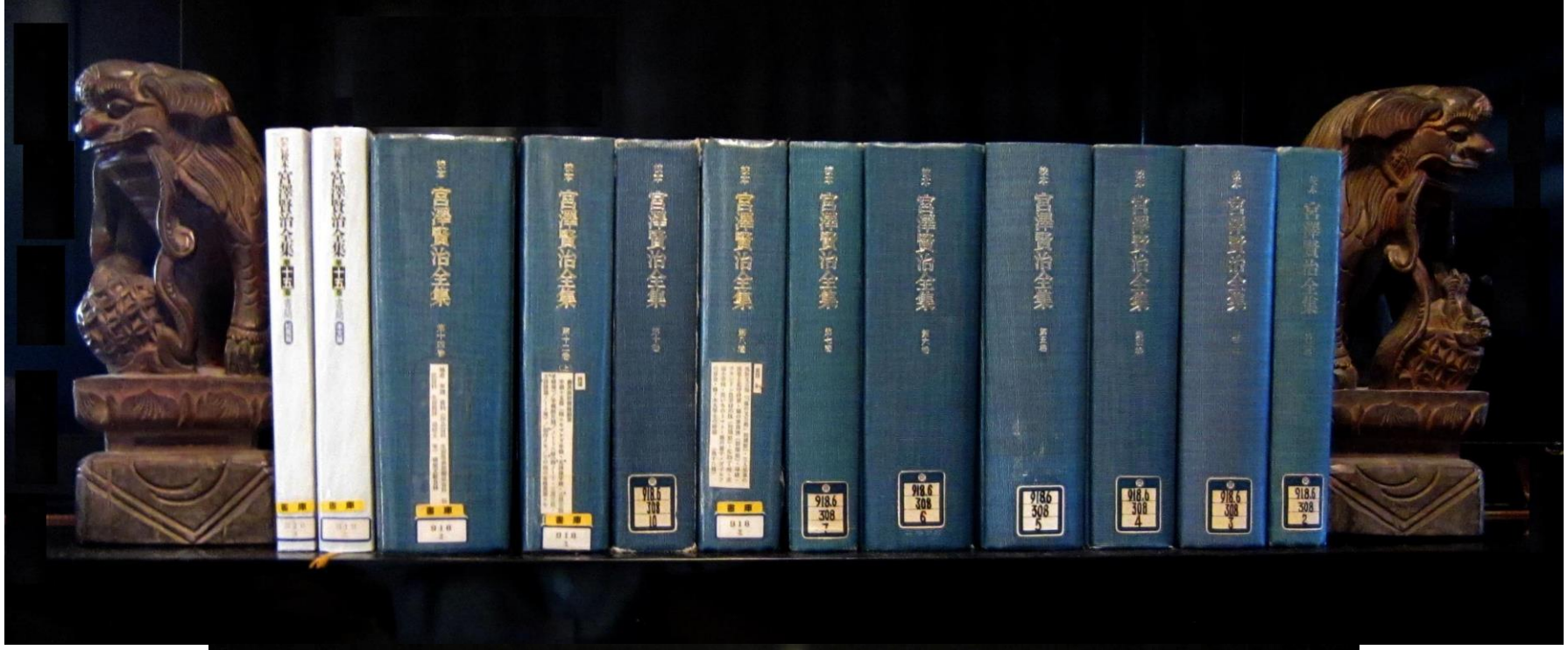
1.1　資料探索

1.1.1　インターネット
　　探索、図書館予約、発表(後述)
1.1.2　図書館
　a. 神奈川県立図書館(以下「県図」と略記)　10冊借用可能
　　川崎分室(競輪場の隣)で受け取り
　b. 横浜市立図書館(以下「市図」と略記)　　6冊借用可能
　　鶴見図書館(自宅から車で～10分)で受け取り

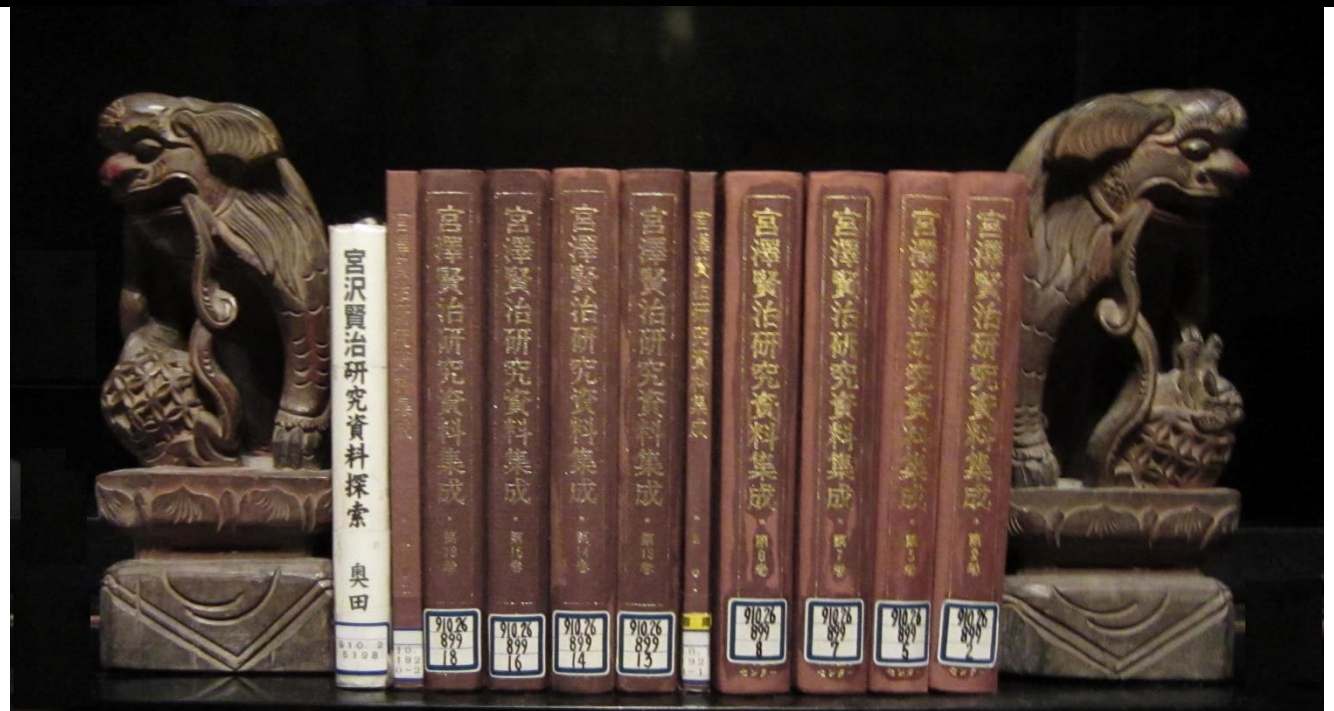
上記2館は自宅から車で約1時間で回る事が可能。
借りた書籍の必要部分をパソコン+スキャナーで
データコピー、pdfのまま、又は変換ソフト(JUST社製)で
テキストに変換して利用。テキスト・エディターは『秀丸』。

自宅に借りた書籍を並べた例

校本　宮沢賢治全集



宮沢賢治研究資料集成



例外

① 島地大等編著『漢和対照妙法蓮華経』
「県図」にあり貸出禁止。

② 宮沢清六発行 『国訳妙法蓮華経』昭和9年6月5日発行
国会図書館にあり、県図のパソコンで閲覧及びコピー可能。

1.1.3 放送メデイア

録画を先ず「画像安定装置」を通してコピーガードを除去、vr形式とする。
DVDにコピー後パソコンで変換ソフト(AVS video converter)によりwmvに変換。
静止画キャプチャーはwmvからは容易。

1.2　発表

1.2.1　ホームページ

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/

③　宮澤賢治と法華経.pdf

④　宮澤賢治の恋.pdf

1.2.2　onedrive公開　(URLは別途東芝材遊会会員など知人に通知)

動画掲載

⑤　0084宮沢賢治はるかな愛.wmv　　NHK放送

⑥　0085宮沢賢治の食卓第3話.wmv　WOWOW放送

ハイパーテキスト掲載

⑦　0083宮沢賢治愛のうた.pdf

澤口たまみ著『宮沢賢治　愛のうた』盛岡出版コミュニティ　2010年発行のコピー。

⑧　0082賢治をめぐる恋人たち.pdf

上記澤口書の大畠ヤス子の一次資料である
佐藤勝治　『宮沢賢治・青春の秘唱　”冬のスケッチ”研究(増補版)』
十字屋書店　昭和59年発行　の付録(二)　賢治をめぐる恋人たち
のコピー。

Ⅱ．宮沢賢治と法華経

詳細は、私のホームページにある
③　宮澤賢治と法華経.pdf　をご覧頂きたい。

2.1　法華経とは

ここでは、その成立に係る渡辺照宏の説(『日本の仏教』(東京昭和三十三年))を紹介したい。

いつの頃か『法華経』原型にあたる特殊の信仰形態を持った一つのグループが存在していた。彼らは「この教えを信仰し、宣伝に協力するものは、すべての苦しみを逃れ、病気も治り、火にも焼けず、水にも、溺れない」と言って信者を集めた。その信仰の強さを示すために、自分の身体に油をそそいで火をつけるものさえあった。　(「薬王菩薩本事品第二十三」)

その執拗さに耐えかねた人々が、それを非難すると「法難だ」と叫んで、ますます結束を固くした。そして自分たちで『法華経』という名の経典を作製した。
一般の人々、ことに仏教の正統派の僧侶たちは大いに迷惑して国王・大臣・僧侶・一般市民に訴えた。しかしこの狂信のグループは「命もいらぬ、教だけが大切だ」と叫んでますます活動を続けた。こうしてグループは発展し、『法華経』も新しい章節を書き加えて現在見るような形が成立した。
これが、経典そのものから読みとれる『法華経』の成立史である。(以下略)

2.2　宮沢賢治と法華経

賢治が大正3年20歳の時に始めて読んで感動で身震いしたという法華経は
①　島地大等著『漢和対照　妙法蓮華経』である。
この著作には解説。賛歌などが含まれているが、その「妙法蓮華経」の始めのところをご覧に入れたい。

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/kanwa.pdf

この本は、神奈川県立図書館にあるが、据置きで貸し出し禁止である。
実物は大正4年発行のもので保存が悪く、ばらばらになりかけているところもあるものであった。
この下欄の和訓は慈覚大師の點訓として伝えられたものに依っている。(①後記)

ご覧に入れたたところは、「序品第一」であるが、現代風に言えば「第一章序」ともいうべきものである。
妙法蓮華経は、28の「品(ホン／ボンと読む)から成っているが、昔から
方便品第二、安楽行品第十四、如来壽量品第十六、観世音菩薩普門品第二十五
が「四要品」とよばれ、特に重要とされていた。
賢治は特に如来壽量品からインパクトを受けたと言われている。

⑨　正木晃　現代日本語訳『法華経』春秋社　2015年発行
が、現代語訳の外に全体の解説と各品の解説がついていて、それが
一般人にも頷けるものと思えて気に入っている。
以下⑨による、方便品第二の現代語訳、その解説、如来壽量品第十六の解説を
ご覧に入れたい。

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/masaki_kyou.pdf　(方便品第二の現代語訳)

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/masaki_kai02.pdf　(方便品第二の解説)

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/masaki_kai16.pdf　(如来壽量品第十六の解説)

2.3　賢治　法華経から日蓮に至る

1918（大正7）年、妹トシが発病、年末に母と共に上京、翌年3月まで看病の為滞京。

1919（大正8）年、滞京中に、国柱会館（上野桜木町1丁目）を一度訪れ、田中智学の講演を聞いている。それで智学にすっかり魅せられたのか、
智学の著書『本化攝折論』（明治35年発行）と『日蓮聖人御遺文』から抜粋した『攝折御文　僧俗御判』を編んだ。

1920（大正9）年、1920年「国柱会」の信行員となる。
田中 智學（1861年12月14日（文久元年11月13日）- 1939年11月17日）は、
第二次世界大戦前の日本の宗教家。

田中 智学、国柱会に関する良い研究書がある。
⑩　大谷 栄一著　『近代日本の日蓮主義運動』法蔵館 2001年02月発行

2.4　田中智学の日蓮主義

日蓮主義は、智学の造語である。
それを要約すると、ｉ）日蓮への復帰と、ⅱ）日蓮思想の拡大による
日本の統合と、世界の統一(八紘一宇)となる。

ｉ）日蓮への復帰

日蓮は、「攝折（しょうしゃく」問題で、
「末法のこの世では、折伏が重要だとして四箇格言（真言亡国、禅天魔、
念仏無間、律国賊）を掲げて折伏を行った。
しかし徳川家康はこれを認めず、以降明治初期までの日蓮宗はその存続の
為に攝受を旨とせざるを得ない状況にあった。
これを激しく論難して日蓮に戻る活動を始めたのが田中智學であり、その考えは
『本化攝折論』に纏められている。

攝折とは「摂受」と「折伏」の意。
「摂受」とは、心を寛大にして相手やその間違いを即座に否定せず反発せず受け
入れ、穏やかに説得することをいう。
「折伏」とは、悪人・悪法を打ち砕き、迷いを覚まさせること。議論などによって破り、
自己の誤りを悟らせること。あるいは、悪人や悪法をくじき、屈服させる事。

ⅱ）八紘一宇

この考えは、智学が纏めた教団の教学体系「本化妙宗式目」に述べられている。
この講義録『本化妙宗式目講義録』(全5巻)を賢治は終日熟読していたという。

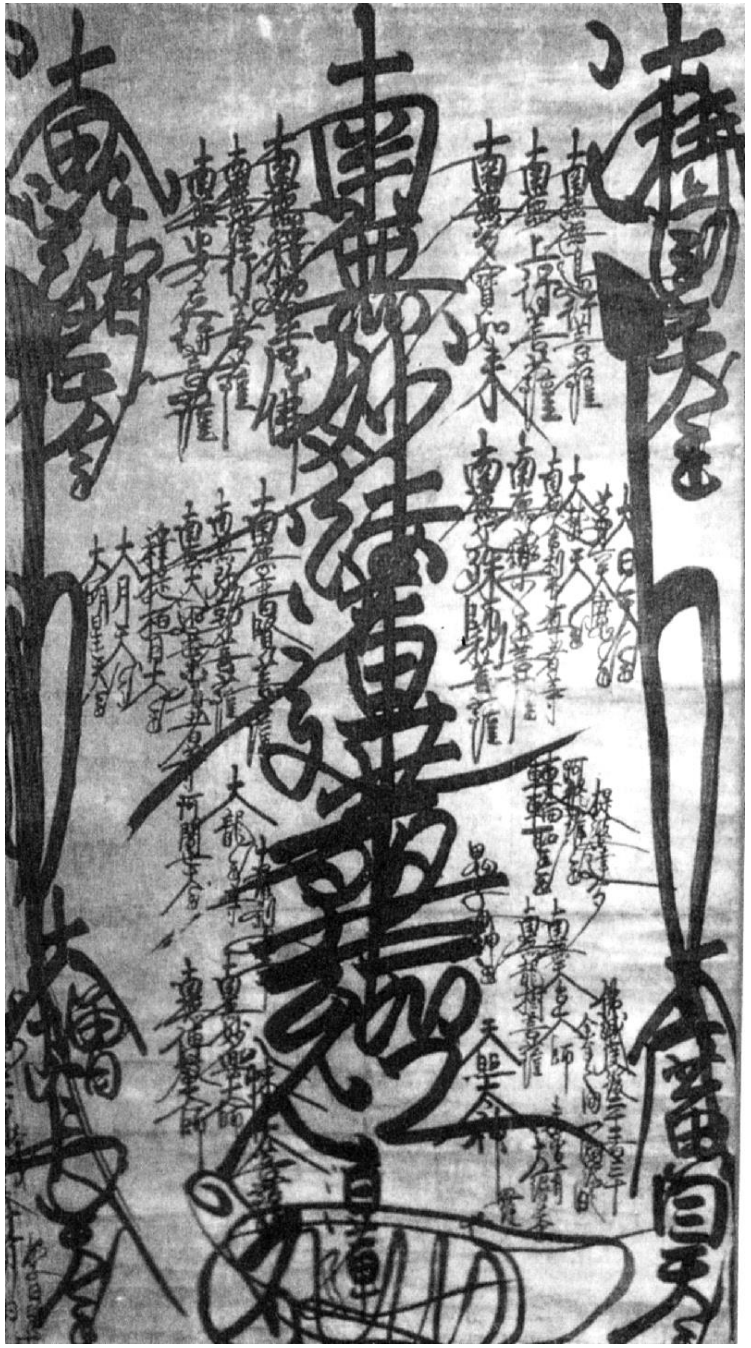
この中の「八紘一宇」に至る論理は難解・複雑で詳細は、⑩大谷書に譲り、
ここでは私なりに解釈・簡略化したものをお届けしたい。

日蓮仏教のエッセンスの主体は、「本門の本尊」、「本門の題目」、「本門の戒壇」
からなる所謂「三大秘法」である。
この三大秘法の解釈（とくに本門戒壇論）に、国柱会教学の独自性がある。
国柱会では、本門の題目はほかの日蓮門下と同じく「南無妙法蓮華経」の
妙法七字であるが、本門の本尊は文永10年（ 1273） 7月8日に佐渡の一の谷で
日蓮が開示した「佐波始顕の曼荼羅」を標準とするとしている。
しかし、本門の戒壇については日蓮が具体的に述べているのは、
『三大秘法稟承事』しかない。

日蓮筆　大曼荼羅」静岡県玉沢妙法華寺蔵

渡邊寶陽　等『空篇解説　日蓮聖人遺文』

二〇一七年佼成出版社発行　より転載



賢治もこの様な曼荼羅を掲げて礼拝していたという

この現代語訳を

⑬ 渡辺宝陽・小松邦彰編『日蓮聖人全集』全7巻　春秋社　の第2巻　p.483

から抽出する。

この全集は、日蓮聖人の遺文で信頼に足ると思われるすべてを
原文と現代語訳対比の形で纏めたものである。

戒壇とは、国家の法と仏法の精神が一 体となり、国王も民衆もこぞって本門の三大秘法を信奉して、法を護るために命がけで戦い布教をした有徳王と覚徳比丘のいにしえの事績を、末法の心の混濁した世に移して実現するようになった時、勅宣や御教書を戴いて霊山浄土に似た最もすぐれた地を探し求めて、法華経修行の道場の戒壇を建立するべきものであろうか。
それは実現する時を待たなければならない。事の戒法とはこのことをいうのである。
インド・ 中国・ 日本の三国ならびに、娑婆世界の人が自身の罪を悔い改める戒法というばかりでなく、梵天・ 帝釈天等も来り集まって立ち並んで修行を行なうべき戒壇なのである。

智学は、この一節に即して、「法国冥合」（政教一致）を以下のように解釈した。
（一）「二法冥合」（「王法冥仏」と「仏法契王」）
（二）「事壇成就」（本門戒壇の建立　　「大詔換発」と「一国同帰」）
（三）「閻浮統一」（世界統一　　「思想統一」「宗教統一」「道義統一」「社会統一」「政治統一）

（一）全世界の統一の前には、日本一国の統合を必要とするが、それが「王法と仏法の冥合」を　通じて達成される、としている。

（二）「事壇成就」は、「大詔換発」と「一国同帰」に分節される。
「二法冥合」をへて、天皇が戒壇建立の大詔を換発し、帝国議会で「憲法第二十八條信教自由の制度」が「本化妙宗国教制度に改正」され、戒壇建立が議決されるとした。
つまり、『三大秘法抄』中の「勅宣や御教書を戴いて」の部分について、
智学は「勅宣」を天皇による「大詔」、鎌倉時代の幕府の下文である「御教書」を「国会の議決」と解釈したのである。
こうして「事壇成就」（による日蓮仏教の国教化）が実現し、『法華経』という「大真理一乗の妙理」が、「国家といふ大勢力」となって現出する「政教一致」が達成されるのである。

（三） つづいて「閻浮統一」となる。この統一は、「妙法蓮華経」によって思想、宗教、道義、社会、政治の統一を通じて達成される、とされた。

なお、ここで注目すべきは、天皇に対する宗教的意味づけである。
天皇は、「世界統一戒壇壇の願主であらせらるる、地上における、末法救主の御代官である」として位置づけられた。天皇の存在が、立正安国会の日蓮主義運動にとって不可欠の存在としてあらためて位置づけられたのである。

なお、『三大秘法抄』における「実現する時を待たなければならない」のフレーズについては、「ただ待って居よとではない、已上の諸条件を充実する時を待てとは、その時を作れとの仰せである」として、智学は「時を作る」運動の実践を強調している。

しかし、これでは本門戒壇の建立から世界統一までの過程が明らかではない。ここからさらに日蓮遺文を敷衍しながら、世界統一のヴイジョンが描かれている。
まず、本門の戒壇がすべての人類国家の帰依すべきものであると世界に宣言されると、「国慾主義の妄念」にとらわれた国が日本と日蓮主義に敵対するようになる、と智学はいう。そこで『如来滅後五五百歳始観心本尊抄』(『観心本尊抄』) における

まさに知るがよい。地涌の菩薩たちの首導である上行・無辺行・浄行・安立行の四大菩薩は、折伏を表にして法華経を弘める時には、世間の賢い国王の姿で愚かな国王を誡め、
摂受を表とする時には、出世間の僧の姿で正法を受持し弘めるのである。
(⑬第2巻p.288)

の一節に依拠して、将来、「本化の教を公布せんとする賢い国王」と「本化を信ぜざらんとする多くの愚かな国王」との争い、すなわち「世界の大戦争」が起こる、とのべている。世界統一は「前代未聞の大動乱」をへて達成される、というのである。

この「大戦争」は『選時抄』の「前代未聞の大動乱が世界に起き、大集経の闘諍堅固の時が現われるのである」の「大動乱」とも規定されており、世界統一は「前代未聞の大動乱」をへて達成される、というのである。

『選時抄』のこの辺りは〈見出し〉＊「後五百歳広宣流布の仏法」 の後半にあるが（⑬第1巻p. 286)、その全文は長すぎるので下記URLからご覧になれるようにした。

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/senjishou.pdf　(後五百歳広宣流布の仏法)

（⑬第1巻p.284～286）

そして、この「大闘諍」で重要な役割をはたすのがI『観心本尊抄』で示唆されている「賢い国王」である。

この「賢い国王」が誰なのか、本門戒壇（国立戒壇）の願主として指定されている天皇と一致するのかどうかは、現在の国柱会関係者においても多くの議論をよんでいる争点である。『本化妙宗式目講義録』においては、天皇＝戒壇願主＝上行菩薩＝賢い国王として提示されている。

＊：原文は、〈見出し〉は全く無く ”べた組” 印刷で、極めて読み難い。

こうして智学は、戒壇建立のはじまりと世界統一の終わりを『三大秘法抄』に、戒壇建立後の世界戦争を『観心本尊抄』に拠り、そして世界戦争後に日本に敵対した国が「帰伏」して、「本門の三帰戒」を受ける(これが智学が考える八紘一宇)までの過程を『選時抄』によって説明しているのである。

以上を賢治は熟読した筈だが、残された童話や詩などはこの影は見当たらない。
この超国家主義的思想にはなじめなかったのか、もう少し長生きして大東亜戦争を迎えたらどのような作品を書いたのか、などと想像するのは楽しい。

2.5　法華経と賢治の文学

1921（大正10）年（25才）、1月無断上京。国柱会を訪れ高知尾智耀に面会。

賢治は後にその死も間近いころ手帳に次の様な「覚え書」を記している。

――――――――――――――――――――――――――――

高知尾師ノ奨メニヨリ／法華文学ノ創作／名ヲアラハサズ
報ヲウケズ／貢高ノ心ヲ離レ　（「雨ニモマケズ手帳」135頁 ）
　　X
筆ヲトルヤマヅ道場観／奉請ヲ行ヒ所縁
仏意ニ契フヲ念ジ／ 然ル後ニ全力之ニ従フベシ

断ジテ教化ノ考タルベカラズ
タダ純真ニ法楽スベシ／タノム所オノレガ小才ニ非レ
タダ諸仏菩薩ノ冥加ニヨレ　（「同手帳」139～140頁 ）

――――――――――――――――――――――――――――

上記「覚え書」に関して紀野一義は（11c）の中で次のように記している。
（11c）紀野一義　「賢治文学と法華経」 これは
⑪ 八重樫晃編『宮沢賢治と法華経』普通社　昭和35年発行　に
掲載されている。

『法華経の信仰を文学に結びつけての法華文学の創作ということを明確に
自覚したのは、やはり国柱会の高知尾智耀のすすめによるところが大き
かったようである。
その時期は大正十年、賢治が二十六歳の冬のことであった。このとき以後
の賢治の文学活動はすべて法華経信仰に基づくものと考えてよいであろう。
しかし賢治は文学によって法華経の教化をしょうとは夢にも 思っていなかった。
「ただ純真に法楽する」ことだけがその目的であった。
　書けば書くほど、法華経の深さ尊さが身にしみ通り、喜びが深まって行く
から、書かずにはいられないという書き方であった。』

この事によって、賢治の童話を直接法華経に結び付けるのは困難である。
それで⑪掲載の他の著作など賢治の文学と法華経の関連についての論説は
殆どすべてが賢治の詩に限られている事になっている。

2.6　国訳妙法蓮華経

1933（昭和8）年（37才）9月21日　父に次の遺言。
午後1時30分静かに眠るように入寂した。
遺言は、「国訳の法華経を千部印刷して知己友人に分けて下さい。…
お経のうしろに次の言葉を書いて下さい。」というものだった。

② 宮沢清六発行 『国訳妙法蓮華経』昭和9年6月5日発行
これは、①の和の部分のみを印刷したものである。
私は、国会図書館にあるものを、県立図書館のパソコンから閲覧した。
和綴じ、柿色の表紙、黒紫の文様の入った帙に入った290頁強のものである。
図書館でプリント(白黒)してもらったものは、画質が良くないが「序品第一」の
始めのところをご覧に入れる。

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/kokuyakumyou1.pdf

この最後には、次の言葉がある。

http://toshiou1048.sakura.ne.jp/kokuyakumyou2.pdf

Ⅲ. 宮澤賢治の恋

詳細は、私のホームページにある
　　④　宮澤賢治の恋.pdf
　をご覧頂きたい。
　賢治は、生涯に亘って多くの女性に恋をし、女性から追いかけられた事もあった。
　ここでは、その中のハイライトとも言える大畠ヤス子との恋を重点に述べる事としたい。

　尚一部、本発表で追加した部分もある。

3.1　四つの恋

以下　⑦　沢口たまみ著『宮沢賢治　愛のうた』盛岡出版コミュニティ　2010年発行から抽出する。

『文語詩「機会」によれば、賢治は生涯に四つの恋をしたといいます。

機会

恋のはじめのおとなひは　　かの青春に来りけり
おなじき第二神来は　　蒼き上着にありにけり
その第三は諸人の　　栄誉のなかに来りけり
いまおゝその四愛憐は　　何たるぼろの中に来しぞも

（校本　宮沢賢治全集　筑摩書房　第五巻　237頁　これを　校本五p.237　と略記以下同様）

「おとなひ」は「おとずれ、訪問」の意味です。
もっとも四つの恋のうち、はじめの二つは学生時代のことで、おそらくは片思いや憧れに過ぎません。
　そしておしまいの一つは羅須地人協会を主催していたころのことで、見合いをしてお互いに好感を持ったものの、賢治が病に倒れてしまったため、進展はしませんでした。　ゆえに、「ぼろの中」です。』

⑦澤口書の大半(全309頁中193頁)は、第3の恋に関するもので、
私のホームページにある④　宮澤賢治の恋.pdf　では、
第1、第2、第4の恋と賢治が悩まされた女性についても記したが、
ここでは省略する。

3.2　第3の恋　大畠ヤス子

・賢治二十六歳大正十一（一九二二）年十一月二十七日、よき理解者であった
妹トシが二十四歳で没。「永訣の朝」、「無声慟哭」などの詩を作る。
このころ、大畠ヤス子という小学校の代用教員と交際をしていた。

この大畠ヤス子に関する検討の経緯は次の様に要約できると思う。

○　第一次資料

⑧　佐藤勝治　『宮沢賢治・青春の秘唱　”冬のスケッチ”研究(増補版)』
十字屋書店　昭和59年発行
の付録(二)　賢治をめぐる恋人たち

○　これを受けて、澤口たまみが

⑦　澤口たまみ著『宮沢賢治　愛のうた』盛岡出版コミュニティ　2010年発行

にて、賢治の詩との関係について研究を深めた。

○　さらにこれを受けてNHKが、その強力な捜査能力を駆使して事実関係の見直し

などを行い、それを元に賢治の詩と大畠ヤス子との関係に新しい頁を付け加える事に

成功した。(⑤)

見直された事実などの主な点は次の２点である。

⑧、⑦ではヤス子の死を昭和6年としていたが、それが昭和２年である事の発見、

及びヤス子嫁ぎ先の実家が「土沢」にある事の発見だ。

上掲の⑧、⑦、⑤3つの資料は何れも私のonedrive公開
に掲載されている。（Ⅰ．参照）

ハイパーテキスト掲載

⑧　0082賢治をめぐる恋人たち.pdf
　　佐藤勝治　『宮沢賢治・青春の秘唱　”冬のスケッチ”研究(増補版)』
　　の付録(二)　賢治をめぐる恋人たち　のコピー。

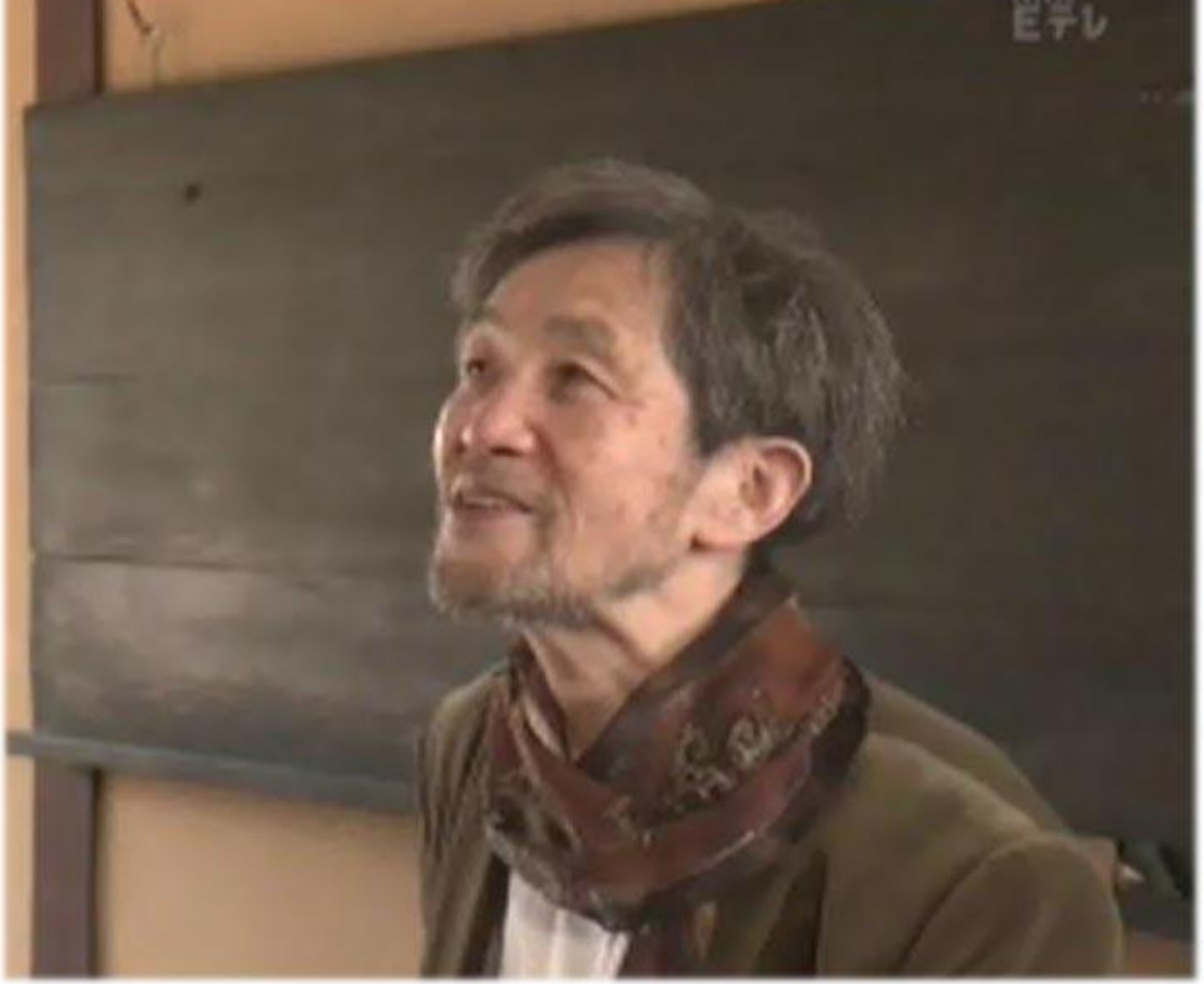
⑦　0083宮沢賢治愛のうた.pdf
　　澤口たまみ著『宮沢賢治　愛のうた』のコピー。

動画掲載

⑤　0084宮沢賢治はるかな愛.wmv　　NHK放送

この放送の主役である詩人吉増剛造と澤口たまみの対談のシーンをご覧に入れる。

澤口 たまみさん



以下、澤口たまみ著『宮沢賢治　愛のうた』、及びNHK放送『宮沢賢治はるかな愛』に従って大畠ヤス子について語る事としたい。

賢治生前発表唯一の詩集『春と修羅』の中に妹トシともう一人の女性が秘かに詠われているのは、トシの死の直後に詠われた詩「松の針」からも明白だ。 その関連部分を抽出する。

――――――――――――――――――――――

松の針

さつきみぞれをとつてきた
あの松のえだだよ
（中略）
おまえがあんなにねつに燃され
あせやいたみでもだえているとき
わたしは日のてるところでたのしくはたらいたり
ほかのひとのことをかんがへながら森をあるいていた
（後略）

この女性を詠ったと思われる詩がやはり『春と修羅』のなかにある。

――――――――――――――――――――――――

春光呪詛

いったいそいつはなんのざまだ
どういうことかわかっているか
髪がくろくてながく
しんとくちをつぐむ
ただそれつきりのことだ
春は草穂に呆け
うつくしさは消えるぞ
（ここは蒼ぐろくてがらんとしたもんだ）
頬があかくて瞳の茶いろ
ただそれつきりのことだ
（おおこのにがさ青さつめたさ）

――――――――――――――――――――――――

この女性はトシであるという説も有力なのだが、後述の「冬の銀河ステーション」考え合わせると大畠ヤスや子と考えるのが妥当だと思う。

大畠ヤス子のイメージは、後述の『宮澤賢治の食卓』でも紹介するが、
賢治とヤス子の恋はトシの死を経て破れ、
ヤス子は、年上の医者と結婚し、1924(大正13)年に渡米している。
その一ヶ月ほど前に『春と修羅』が自費出版されたのだ。
そしてこの詩集の最後にあるのが「冬と銀河ステーション」である。
この中に土沢という町が出てくるが、これはヤス子の嫁ぎ先のある町なのだ。
少し長い詩だが、その全文を掲げる。

冬と銀河ステーション

そらにはちりのやうに小鳥がとび／かげらふや青いギリシャ文字は
せはしく野はらの雪に燃えます　／パツセン大街道のひのきからは
凍ったしづくが燦々と降り　　／銀河ステーションの遠方シグナルも
けさはまつ赤に澱んでゐます　　／川はどんどん氷を流しているのに
みんな生ゴムの長靴をはき　　／狐や犬の毛皮を着て
陶器の露店をひやかしたり　　／ぶらさがったた章魚を品さだめしたりする
あのにぎやかな土沢の冬の市日です
　（はんの木とまばゆい雲のアルコホル／あすこにやどりぎの黄金のゴールが
　　さめざめとしてひかつてもいい）
あゝJosef Pasternack の指揮する／この冬の銀河軽便鉄道は
幾重のあえかな氷をくぐり　　／（でんしんばしらの赤い碍子と松の森）
にせものの金のメタルをぶらさげて　／茶いろの瞳をりんと張り
つめたく青らむ天椀の下　　／うららかな雪の台地を急ぐもの
　　（窓のガラスの氷の羊歯は　　／ だんだん白い湯気にかはる）
　　パツセン大街道のひのきから　／しづくは燃えていちめんに降り
はねあがる青い枝や　　／紅玉やトパーズまたいろいろのスペクトルや
もうまるで市場のやうな盛んな取引です
（校本二p.217）

キリスト教では「やどりぎ」の下で出会えば幸せになると言い伝えられているそうで、
この詩は、ヤス子夫妻への祝福を込めた詩になっていると思う。
また「茶いろの瞳をりんと張り」冬の銀河軽便鉄道は（ヤス子夫妻の様に）
雪の台地を(幸せを求めて)進んでいく。

そしてこの詩を最後に置いた事、その出版がヤス子渡米の一ヶ月前である事は、
『春と修羅』が亡くなった妹トシと同時に別れざるを得なかった恋人ヤス子への惜別
のモニュメントであるとも言えるのでないかと思える。
そしてヤス子への愛と思い出が、賢治が終生書き続けていた『夜の銀河鉄道』
に繋がっていく事になるのだと思う。

しかしヤス子も薄幸だった。米国で1927(昭和2)年に27才で亡くなっている。
その知らせを賢治がどのようにして受けたのかは分からないが、
その死の一ヶ月後に次の詩を作っている。
尚、澤口書ではヤス子の死は昭和6年となっていて、この詩への言及は無い。

NHK放送 宮澤賢治はるかな愛」より

わたくしどもは

一九二七、六、一 、

わたくしどもは　　ちゃうど一年いっしょに暮しました
その女はやさしく蒼白く
その眼はいっでも何かわたくしのわからない夢を見てゐるやうでした
いっしょになったその夏のある朝　　わたくしは町はづれの橋で
村の娘が持って来た花があまり美しかったので
二十銭だけ買ってうちに帰りましたら
妻は空いてるた金魚の壺にさして　　店へ並べて居りました
夕方帰って来ましたら
妻はわたくしの顔を見てふしぎな笑ひやうをしました
見ると食卓にはいろいろな菓物や
白い洋皿などまで並べてありますので　　どうしたのかとたづねましたら
あの花が今日ひるの間にちゃうど二円に売れたといふのです
……その青い夜の風や星、　　すだれや魂を送る火や……
そしてその冬　　妻は何の苦しみといふのでもなく
萎れるやうに崩れるやうに一日病んで没くなりました
（校本六p.169）

賢治の女性への愛を詠った最高の作品ではないだろうか。

3.3　宮澤賢治の食卓

　このテレビドラマは、WOWOWで6～7月にかけて5回に亘って放映されたもの。
この中で、賢治の恋人として描かれているのが蕎麦屋『桜屋』の娘
桜小路ヤスである。

その出で立ちもフェルトの草履を履き、オペラバッグを持つなど、
ヤス子を偲んで詠ったと思われる次の詩に沿っている。

フェルトの草履美しくして
なべての指は　荒みたり
さもいたいけの　をみなごの
オペラバッグを振れるあり

暁惑ふ　　改札を
ならび過ぐると　おのおのに
人なきホーム　　陸の橋
まなこさびしく　ふりかへる
（校本五p.851）

賢治の弾んだ心が見えるようだ。
若干解説すると、彼女の実家はソバ屋(大畠屋)で、家業の手伝いから指先は
荒れているのだ。

「宮澤賢治の食卓」第3話からヤス(市川実日子)と賢治(鈴木亮平)の出会いの場面を
ご覧に入れる。「しんとくちをつぐんだ」女性のイメージは市川実日子にピッタリだ。

フェルトの草履の緒が切れ、賢治はヤスを背負って、ヤスの実家「桜屋」まで送っていくのである。

実際の賢治の生家とヤス子の生家大畠屋は直線距離で100メートルほどしか離れていない。

3.4　大畠ヤス子の謎

大畠ヤス子については、謎が多い。
私なりの見方は、ホームページ掲載の
④　宮澤賢治の恋.pdf
にあるが、ここでは時間も大分オーバーしている
ので省略する事としたい。